

風のように

甘木教会



主任牧師：崔大凡

牧会委嘱牧師：竹田孝一

イエスは言われた。「行かせることはない。あなたがたが彼らに食べるものを与えなさい。」 マタイによる福音書14：16

【説教要旨】

みなさんも好きな聖書物語がありませんか。私は今日の聖書の物語が好きです。そして、今までの教会の伝道において、自分のクリスチャンとして生き方として支えられ、励まされ、希望を与えられた物語です。

野原に男5000人が残され、(こどもと女性は含まれていない) この人たちへの食事のことをどうするかということになりました。いつも、イエスさまと歩くということ、神のみ手の中を歩くということは自分には越えられない課題をもつということではないのでしょうか。そこで、与えられた課題を解決するために私たちは考えます。イエスさまの弟子も野原に男5000人が残され、(こどもと女性は含まれていない) この人たちへの食事のことをどうするかということに知恵を尽くしたのです。夕暮れになったので、弟子たちがイエスのそばに来て言った。

「ここは人里離れた所で、もう時間もたちました。群衆を解散させてください。そうすれば、自分で村へ食べ物を買に行きましょう。」

この弟子の提案は実に正しい提案です。間違いありません。しかし、彼は正しく分析し、正しい提案をしたのですが、ひとつ見逃しているのです。

イエスさまはこの提案について答えられます。「行かせることはない。あなたがたが彼らに食べる物を与えなさい。」

弟子は答えます。「ここにはパン五つと魚二匹しかありません。」

これでは5000人以上の人を食べさせることは到底できません。実に正しいのです。しかし、彼らは見逃しているのです。

何を見逃しているかと言うと、皆さんももうお分かりでしょうが、自分の前に立たれているイエス・キリストです。私たちが困窮したとき、私たちは孤独ではない。マタイが一貫して「インマヌエルー神が共にいます」ということ伝えていますが、「インマヌエルー神が共にいます」ということを見逃しているのです。マタイは5000人に食べ物を与えるというこの物語を次のように始めています。

イエスは舟から上がり、大勢の群衆を見て深く憐れみ、その中の病人をいやされた。

主は恵みに富み、憐れみ深く、忍耐強く、慈しみに満ちている。主はすべてのものに恵みを与え、造られたものを憐れんでくださいます。

詩篇145：8～9

人を深く憐れみ、力強く業をなす、恵みに富み、憐れみ深く、忍耐強く、慈しみに満ちているイエス・キリストが私たちの前に立たれているのです。この方を私たちは見逃している。

私たちは知恵をもって、物事を解決していこうといたします。それは必要、大切なことです。しかし、何事にもまずは私たちが思い、感じ、信じることは私たちの前に恵みに富み、憐れみ深く、忍耐強く、慈しみに満ちているイエス・キリストが立たれているということです。初代教会は小さく、力なく、迫害され困窮の極みの中にいました。ときとして、人間の経験と理性、すなわち知恵が教えてくれるもう駄目だと、もう生きられないと。しかし、初代教会の強さは、マタイが記したように**大勢の群衆を見て深く憐れみ、その中の病人をいやされた**イエス・キリストがおられるという信仰が彼らを支えていたのです。

経験が、理性がすなわち知恵が教えてくれる駄目なことを。しかし、イエス・キリストはその駄目なことに向かって働

きかけろと言われる。イエスは言われた。「行かせることはない。あなたがたが彼らに食べる物を与えなさい。」と言われても、「ここにはパン五つと魚二匹しかありません。」私たちはわずかなものしかない。しかし、このわずかなものを用いて、多くの人を憐れみ、力強い業をなしてくださるイエスさまがおられる。

イエスは、「それをここに持って来なさい」と言われました。多くの人を食べさせた。すべての人が食べて満腹した。そして、残ったパンの屑を集めると、十二の籠いっぱいになったという出来事を起こされました。人を生かしてくださる恵みに富み、憐れみ深く、忍耐強く、慈しみに満ちているイエス・キリストのみ手が、働かれていることを忘れてはいけない。「パン五つと魚二匹しかありません。」と受け止めるか、このわずかな物を神の恵みとして受け止め、神の前に差出し、共にイエスの愛を伝えるための祝福として捉えるかは自ずと違う展開が起きてきます。私たちはインマヌエル、神の恵みの中、祝福の中を生きるものです。経験が、理性が教えてくれる駄目だと思うこの時も神のなさることは皆その時にかなって美しい時です。私たちは差出そう私たちの貧しさをイエス・キリストは、美しい時に、出来事に変え、大きな奇跡はきっと起こされます。駄目だと諦めない。力尽きたと言わない。**大勢の群衆を見て深く憐れみ、その中の病人をいやされた**イエス・キリストの恵みの中を私たちは今日も生かされている。「残ったパンの屑を集めると、十二の籠いっぱいになった。」これは完全であるということである。私たちの貧しさをイエスさまに差出すとき貧しさは完全なものとなるのである。「しかありません。」という貧しいものを豊かに受け止めてくださる神さまがいることを信じ、「**しかありません。**」という私たち物を主にささげる事こそが私たちの信仰の勇気です。だから、なすべきことをなしていきましょう。そして、五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで賛美の祈りを唱え、パンを裂いて弟子たちにお渡しになった。弟子たちはそのパンを群衆に与えた。

人を生かしてくださるみ手が強く今日も働いています。

牧師室の小窓からのぞいてみると



28日（火） 夕刻、4時29分ぐらいに大きく横揺れる地震、園児1名が残っていて、隣のホールで先生と遊んでいる。広く何もないので大丈夫だろう思いつつ、シェークアウト訓練通り揺れが治まるのを机の下で私は待つ。揺れが治まり、すぐにホールにかけこむとまず低く、頭を守り、動かないというシェークアウト訓練の通りに園児を守って先生が身を挺してくださった。次に二階から園庭に誘導した。そこで、今年の夏の暑さがあった。暑さ対策をしながら様子を見る。

震源地の熊本は震度7.1であった。日がたつにつれて被害の大きさが分かってきている。その上、この暑さである。被災者の方々のことが気になる。どうして10年前に地震があり、またここで起こるのか人の思いを、手を超えたものがあることをひしひしと感じている。

10年前とは違い、その時の経験もあり、落ち着いて今は、私たちは何が出来るかということを実行に行動されている。しかし、同時に10年前のトラウマがあり、次がくるのではないかとということで恐れがあり戸惑っている現地の方も多いと聞く。日が立つにつれて不安もあるだろうが緊張から解放されることを祈ってやまない。



園長・瞑想？迷走記

2016年の熊本地震から7年目に九州に来て、すぐに地震訓練をした。シェークアウト訓練である。東京は東日本大震災後、この訓練を繰り返し、繰り返し行っていたからであり、2005年の福岡西方沖地震、2016年の熊本地震があったから、地震訓練を行った。今回の地震で地震から守るというだけでなく夏の暑さから守るということもつけくわなければならないと思った。もう一度訓練の内容を練りなさなければならない。

日毎の糧

聖書：主は恵みに富み、憐れみ深く、
忍耐強く、慈しみに満ちている。

主はすべてのものに恵みを与え、
造られたものを憐れんでくださいます。 詩篇 145：8～9



ルター言葉から

神は沈黙し、最も悪い悪戯っ児を長い間じっと観察して、罰しないで大目に見るほど忍耐強く、憐れみ深い。

『卓上語録』M.ルター著、植田兼義訳、教文館

神の属性 忍耐

145篇は、138篇から始まった「ダビデの詩」の最後の詩編である。アルファベットによる詩編であるから教育的なものであるが、ユダヤ教では日毎の讃美、礼拝で使われていた。古代教会もやはり、用いられてきた。讃美歌6番のニコル・グリーブ作はこの詩編から生まれた。イスラエルの歴史、出エジプト、捕囚の出来事が背景にある非常に整えられた神へのあふれんばかりの賛美の詩である。前半部分は神の具体的なことでなく、一般的な讃美がされるが、後半は、具体的な神の働きについて讃美されている。

8節～ 9節は、神の属性の讃美である。神は恵みに、慈しみに富むお方である。それでも一つの属性は、「怒るのにおそく」（新改訳）とも訳せる忍耐強く、ということである。「忍耐」はキリスト者にとって大切なことである。

5:3 それだけではなく、患難をも喜んでいる。なぜなら、患難は忍耐を生み出し、5:4 忍耐は錬達を生み出し、錬達は希望を生み出すことを、知っているからである。5:5 そして、希望は失望に終ることはない。なぜなら、わたしたちに賜わっている聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからである。

ローマ信徒への手紙 5：3－5

参考：「詩編の思想と信仰VI」

月本照男 新教出版

祈り：あなたは慈愛深く、忍耐して私たちが立ち帰ることを願っています。あなたに私の目を向けさせてください。アーメン。

甘木通信

「すべてのわざには時がある・・・・・・・・・・

神のなさることは皆その時にかなって美しい」

コヘレト3：1，11

口語訳聖書



8月で73歳になる。昨年、死を意識するほどの病気をして、後ろを振り向くことが多くなった。振り向けば、振り向くほどこの口語訳の聖書のコヘレトの言葉が、「はい」と受け止めることが出来るようになった。

誰でも、クリスチャン生活を支えてくれた本があるのではないだろうか。私のその一冊の本、「忍耐について 佐藤敏夫著 日本基督教団出版局」がある。そこで聖書の時について書いている。時、カイロス、「神のなさることは皆その時にかなって美しい」という「時」である。この時は神のみ手に握られているということで、私たちがどんなに頑張ってもこの時を得られない。だから忍耐して待つということであると言われている。この反対が焦りだというのである。そして、今そのことがよく分かるようになった。若い時、どうにかしようと力み焦ったことか、空振りばかりだった。しかし、今、この力んで焦って空振りのときも神のなさることは皆その時にかなって美しいと受け止めることが出来るようになった。

そして、私が焦ったときも単に神の支配と言うことでなく、神の愛の支配にあったように自分のこの時も美しいものであったと感謝し、受けとめている

「たとえ明日が終わりであって今日、りんごの苗を植える」とルターが言うように時は神のみ手、愛の支配にあり、今日すべきことを焦らず確実にしていくことがなんと楽しいことかと思えるようになった。歳を重ねて老いた者だけが得られる神のプレゼンであると思う。

(甘木日記)土) 甘木教会、人を刺すような暑さで外に出られない。日) 午後から役員会、そして東京に。飛行機が1時間20分遅れて出発。最終電車にぎりぎり間に合う。月) 会議の時間を間違う。情報通信技術の活用をし、どうにか参加出来た。火) 夕刻4：29分大きな横揺れ。震源地は熊本。皆無事で良かった。水) 日が立つにつれ熊本の被害が見えてくる。木) 暑さ厳しいとき、被災された方の健康を祈る。金) 職員会議。

おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。
はぐちらない聖人（牧師）もいますが。

土）金曜日から甘木に泊まり、礼拝などの準備。日差しが強い中を午ぐらいに家内は駅から歩いて来る。あまりにも陽射しが強く一歩も外に出られない。夜は甘木の近所の温泉に行く。ここでホッと。日）強烈の暑さ。しかし、保育園の先生、親子、また、リハビリー中の教会員も来てくださり暑さの中にも爽やかな風が吹く礼拝だった。教会の庭で出来たゴーヤ、大葉を使って漬物を作って、礼拝後のお茶うけに出す。「昔はニガウリと言った」とか・・・話が弾む。役員会を終えて空港へ。羽田空港が雷で飛行機が1時間40分遅れる。ぎりぎり最終電車で繋がった。月）羽村幼稚園の会議で時間を私は間違う。機転をきかし、カラオケに入り、zoom会議に参加。①カラオケを利用するにもアプリ会員とならないといけない。スマホが必要。②zoomが利用できる。③ICT活用（情報通信技術の活用）の時代を実感。午後には羽村に行き会計士さん、監事さんらと話し合い。今後のことを園長と話す。時間通り、飛行機も飛ぶ。久留米では気温39.8度だったと聞く。火）日善幼稚園。園児より先生が多く一安心。夕刻、4時29分ぐらいに地震。大きく横揺れ。一人の園児が隣の部屋のホールで先生と遊んでいる。揺れの治まるのを待って、無事を確認し、二階から一階へ、酷暑で園庭に出られないので軒先に避難誘導を指示する。全員、安全であることを確かめ建物の被害状況を見るが別になし、職員は震源地の熊本にいる園児の安否を確かめ、コドモンで安否確認と明日の保育についてお知らせをしてくれる。松崎保育園の状況を電話で聞くと何も起こらなかった。ホットする。余震が起きないことを祈って帰宅。甘木教会の状況を確かめに行こうとするが電車が止まっている。松崎保育園園長に行っていただく。



（車窓の夕日と教会）

「無事、何もなし」と電話をいただく。設、福祉施設は気になる。水）地震後、甘木教会の電気、水道、ガスの点検。電車が止まると困るので車を久留米に移動させる。途中、昨日の点検のお礼に松崎保育園に寄る。夕刻から園長研修。聞きながら時代の変化に追いついていかない。段々と熊本の被害が大きいのに気になる。夜、余震を警戒して家内の運転で甘木教会へ。泊。木）何もなくて一夜を過ごす。松崎保育園の子どもも礼拝で、熊本地震で被災された方のことを思い、子どもらと祈る。暑さは被災地の人を苦しめているのではないかと。少しでも気温が下がって欲しいと強く祈る。金）一学期の職員



（暑さで潤れた花）働きに感謝し、労りの昼食会後、職員会議。一学期、子どもと楽しく過ごしてくださり、感謝。ご苦労様でした。